

「イクボス」浸透に期待

「イクボス」をご存じだろうか。部下や従業員の育児や介護などワークライフバランスを考慮し、個人の人生と企業の業績との両方を成立させることを目指す上司や経営者のことだ。

昨年11月、イクボスの推進を図る自治体の取り組み状況を調査した「第2回イクボス充実度アンケート調査」（NPO法人ファザーリング・ジャパン）で三重県は、2017年の前回調査に続き1位に輝いた。県庁では、前回調査以降、更なるイクボスの普及と定着を目指し、庁内の取り組み強化を率先して行い、18年度の県庁男性職員の育児休業取得率が8.1%と全国で最も高くなった。

また、県内企業などにも啓発していくため、各社が集まり、自社のイクボスの取り組みを紹介し、働きやすい職場の風土醸成に向けた情報交換会「みえのイクボス風土イノベーション」を開催している。その他、今年度で7回目の開催となる「ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ」のイクボス部門で、家族参加型の社内イベントを増やした経営者や育児休暇対象者への声掛けや周りの職員の理解を得るための職場づくりを行う上司の好事例を表彰・紹介するなど、さまざまな取り組みを実施している。

その結果、イクボス普及を目指す県と企業等で構成する「みえのイクボス同盟」は、16年発足時の76団体から、755団体（20年12月4日現在）にまで増加している。

イクボスは、従業員満足度向上、業務効率化や組織力向上といった企業メリットが期待できる。また、コロナ禍による外出自粛や在宅勤務といった、生き方や働き方の変化で、男女ともに家事・育児への参加意識が高まっている。今後さらに重要性が増すことが予想されるイクボスが、県内じゅう、そして全国に浸透することを期待したい。

（コンサルティング事業部 調査グループ 研究員 服部 諒）